

天国に行ってしまった優しき勇者たち

近藤誠先生と日野原先生

医療福祉ジャーナリズム分野修士1年

齊藤真美

ゆきさま

今回の講義の「天国に行ってしまった優しき勇者たち」の中で、私が知っていた勇者はお二人でした。

お一人は、がん医療に携わっている者であれば多くの人が知っている近藤誠先生、そしてもうお一人は、世間的にも非常に有名な日野原重明先生です。

近藤誠先生について、私がこれまで知っていたのは、「インフォームドコンセントを広めた医師」というプラスの側面ではなく、「エビデンスの得られている標準治療を行わない、破天荒な医師」というイメージでした。

そのため、今回の講義で、近藤先生が若い頃から患者に病名や病状を伝え、患者自身が治療を選択する権利を大切にする実践を行っていたことを知り、とても驚きました。

さらに、後年には極端な主張をするようになり評価が分かれているというお話も含め、一人の人物を一つの側面だけで判断するのではなく、その人が何をしてきたのかを時系列で知ることの大切さを感じました。

日野原先生についても、私が知っていたのは、100歳を超えても診療や講演を続けていた、という姿でした。

しかし今回、患者自身による血圧測定や医療への参加、ホスピスケア、人間ドック、音楽療法など、現在では当たり前のように受け入れられていることを、早い時期から実践されていたことを知りました。

今回私が一番驚いたのは、精神病棟に潜入したジャーナリストのお話です。

どうすれば精神病棟に入院できるのかを考え、実際に入院して、その現場を自分の目で確かめたという行動力には、本当に驚きました。

外から精神医療について語るのではなく、自分自身がその中に入ってみることで、外からは見えないものを知ろうとする姿勢が、とても印象に残りました。

これから始まる今期の講義でも、前期の講義同様に、これまで自分が知らなかった方々の生き方や実践を知ることができるのを楽しみにしています。